

腰痛 ミステリアスな難敵



自動車産業人向け ヘルス&ケア

②腰痛の定義・疫学

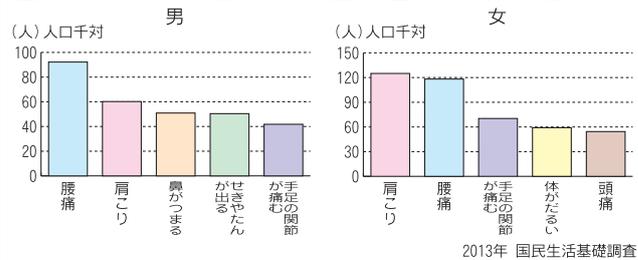
腰痛とは、日本整形外科学会などが作成した腰痛診療ガイドライン2012では「触知可能な最下端の肋骨と殿溝（おしりの肉の下の横向きのしわ）の間の領域に位置する疼痛」と規定するが、確立した定義はないとしている。よ

うするに腰痛とは腰あたりの痛みのあることであり、それ以上のことを意味していない。腰痛＝椎間板という印象をもった方が多いが、腰痛はそのような意味を持っていない。腰痛は腰が痛いという症状であって、その原因となる疾患にはさまざまなものがある。

また、同ガイドラインは発症から4週間未満が急性腰痛症、3カ月以上経過すると慢性腰痛症としている。その間は亜急性である。どれほど痛みが強くても急性期で収束しなければ大きな問題はないが、慢性化すると日常生活や仕事に支障が出る。

厚生労働省が国民の生活の状態に関して毎年調査している国民生活基礎調査の2013年の報告によると、有訴者（病気やけが等で自覚症状のある者）の症状のなかで男性では腰痛が最も多く1千人中

性別にみた有訴者率の上位5症状(複数回答)



2013年 国民生活基礎調査

原因は腰椎ばかりじゃない

92・2人、女性では肩こりに次いで腰痛が多く1千人中118・2人であった。約10人に1人は今現在、腰痛を自覚しているということである。生涯で腰痛を自覚したことがある人の割合は8割以上ともいわれている。

腰痛は腰椎ばかりが原因ではなく、尿路結石や子宮内膜症、脾炎、腹部大動脈瘤などが原因である可能性があり、これらの疾患も想定する必要がある。それ以外に、心因性腰痛と呼ばれる病状もあるとされている。ストレスに由来する腰痛と考えてはば間違いないが、これを証明することは難しい。医者の立場からすると、さまざまな検査で腰痛の原因が見当たらない場合、心因性としてしまいがちである。整形外科の問題ではないとして、自分が患者さんに関わるのをやめるといふことだ。その結果、多数の医療機関を転々とする患者さんが発生することになるが、それを解決するのは難しい。

(岩井整形外科内科病院
湯澤洋平副院長)